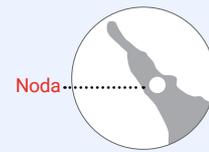


ICT が身近な文具として浸透する野田市立みずき小学校 主体的学びや情報発信、 コミュニケーションにプラスの影響を生む

千葉県最北西端に位置し、醤油の産地として全国的に知られる野田市。同市では「NICT(野田 ICT)」という独自の ICT 活用プロジェクトを推進し、教育への ICT 導入を積極的に実践しています。その野田市において NICT 教育推進事業のパイロット校に選ばれ、他校に先駆け Chromebook と Google Workspace for Education(以下、Google Workspace)の導入を進めたのが、野田市立みずき小学校(校長 梅建氏)です。



野田市立みずき小学校

野田市みずき 3-2-3
<https://schit.net/noda/esmizuki/>

2022 年度に創立 20 周年を迎えた、千葉県野田市の自然豊かな住宅地にある小学校。学校教育目標は「笑顔で学びにむかひ心豊かに活動できる子の育成 ~ 学校・家庭・地域で育てる "みずきっ子"」。児童数は計 632 人、教職員は 42 人。市の ICT 活用推進プロジェクト「NICT(野田 ICT)」で 2021 年度のパイロット校に選ばれ、教育への ICT 導入が活発に進む。周囲の環境を活かした田植えや生物観察など自然体験活動にも取り組んでいる。

 約 **648** 台

01

日々の発見と児童が見つかる機能を 組み合わせて活用のアイデアを作る

野田市では、教員のボトムアップ活動として ICT 活用を進め、その取り組みを市全体に広めていく目的で NICT のプロジェクトを実践しています。市教育委員会が GIGA スクール構想に対応するソリューションとして Google for Education を選定したことを受け、みずき小学校は 2021 年度の NICT 教育推進事業の

パイロット校(研究指定校)に指定されました。その関係で、1 人 1 台端末の本格スタートを迎える前年度の 2020 年度に、1 クラス分の Chromebook と Google Workspace が先行導入されていました。

教頭の瀬戸芳男氏は 2020 年度に同校へ赴任する以前、市教委で ICT 担当の仕事をしていました。つまり、ICT 推進を最初は教育委員会で、続いて学校の現場からリードしていく立場となっています。瀬戸氏は、市教委が 1 人 1 台端末として選定する以前から Chromebook がふさわしいと考えていたそうです。その理由として、「とにかく起動が速く、かつ安価なところに魅力を感じました」と瀬戸氏。同校で教育に ICT を導入していくにあたり目指したのは「文具化」であるとし、次のように続けます。「主体的な学びを進めていくうえで、パソコンを使うことにこだわり過ぎる授業はしてほしくないと思いました。ですが、たとえば円を描くとき、コンパスがあったらいいと思うはず。それと同じく、パソコンがここにあればいいと思えるような授業をつくっていかねばならないと考えます」

野田市立みずき小学校



教頭
瀬戸 芳男 氏

野田市立みずき小学校



教諭
河野 明子 氏

同校で ICT 活用をリードする立場にある河野明子氏は、「文具」のツールとして Google for Education が選ばれた当初は Chromebook も Google Workspace も知らず、不安があったといいます。だからこそ、Chromebook が先行導入された際、ガイド本を読んだり、同僚の教員と話し合ったりしながら、とにかく子どものように、まずは使ってみようと思ったそうです。「少しずつわかっていくのが楽しく、使い方がどんどん広がっていきました。この機能を試すとこういう活用ができた、といったように、毎日が発見の連続でした」と振り返ります。

野田市立みずき小学校



教諭
大西 敦久 氏

現在 ICT リーダーを務める大西敦久氏も、同様に調べたり、他の教員に質問したりしながら活用を広げていったといいます。大西氏は、ICT を実際に児童たちに使わせていく過程でのエピソードを教えてくださいました。「私自身がどう使っていけばいいのかわからなかったのですが、子どもたちに何をさせればいいのか考えるところからスタートしましたが、子どもたちのほうが次々といろんな機能を見つけてきました。そうして知った機能を自分のアイデアで組み合わせながら、授業などでの活用を追求していきました」

02

授業で広がる多彩な使い方 子どもたちの自発的利用も進む

パイロット校として手探りで ICT 活用を始めていった同校ですが、授業や委員会活動などでの導入が次々と進んでいきます。音楽を担当する佐瀬奈津子氏は、音楽の授業での多彩な活用方法を披露してくれました。

「音楽では、曲作りを簡単に行える Song Maker をよく活用しています。選択するだけで音が鳴るので、楽器が弾けない、音符を読めない児童でも、楽しみながら曲作りに臨めるのがいいですね。また、Google スプレッドシートも曲作りに使います。グループ活

動でリズムを作る場面で音楽の仕組みが色分けされ、目で見てすぐにわかるので、とても便利です。これまでは紙を切ったり貼ったりしていた作業が一瞬で済み、支援が必要な子どもたちにとっても理解しやすいので、積極的に利用しています。子どもたちも共同編集できるところに魅力を感じているようですし、とにかくわかりやすいので、興味を持って取り組んでいます」

河野氏は、Google フォームで子どもたちに質問を投げかけたり、テストを作って授業の初めに答えさせ、それをもとに授業を進めたりといった使い方に興味を持ったといいます。ほかにも、国語の授業で Google スプレッドシートに意見を書いてクラスで共有す

野田市立みずき小学校



教諭
佐瀬 奈津子 氏





る、社会の授業で動画を Google Classroom に貼り付ける、算数の面積を求める授業で Google Earth を使い公園の面積を測ってみる、などなど多彩な利用法を編み出しています。

また大西氏は「2021 年度は 1 年生の担任だったため、最初は Google スプレッドシートが子どもたちにとって難しく、Google Jamboard で色分けした付箋を動かしながら学ぶという方法で進めていきました。操作にある程度慣れてからは、道徳の授業で Google スプレッドシートに友達の意見を見ながら自分の意見を書く、という使い方も始めました。行ごとに書ける人を限定できる設定を見つけたので、その設定を利用しています」と話します。

こうしたさまざまな使い方について、職員室では教員同士の意見交換が日々自然と交わされているといいます。瀬戸氏も教員たちがアイデアや工夫を話し合っている場をよく見かけるそうで、誰もが楽しみながら ICT の活用方法を模索している様子が伺えました。

2021 年 4 月の本格導入開始から 1 年数か月の成果として、瀬戸氏は「学習における文具化が図られた」と評価します。その

具体的エピソードを河野氏が紹介してくれました。「印象的な出来事として、発する言葉に自信を持たず、普段口数の少ない児童が、Chromebook でならすらすらと素敵な文章が打てることがわかり、それをきっかけに自信を持つようになったことがありました。間違っても入力しても打ち直せばいいため、気軽に表現できることが効果的だったのでしょうか」

佐瀬氏は、担当する歌声委員会で、従来は配付する歌詞カードを児童が手書きで作っていたところ、その準備が間に合わなかったときに自発的な取り組みが生まれたと話します。「ある児童が歌詞カードを Chromebook で作り、Google Classroom でクラスの友達に配付したのです。問題の解決に ICT を使ってみるという、まさに文具化した様子を見て取れました」。この児童は ICT を使えば自ら発信できることがわかり、自信をつけて、学校で積極的に活躍しているといいます。教務主任の野村美穂子氏は「Google for Education が私たちと子どもたちをつないでくれたという実感が生まれ、非常にうれしかったことを覚えています」と回顧します。

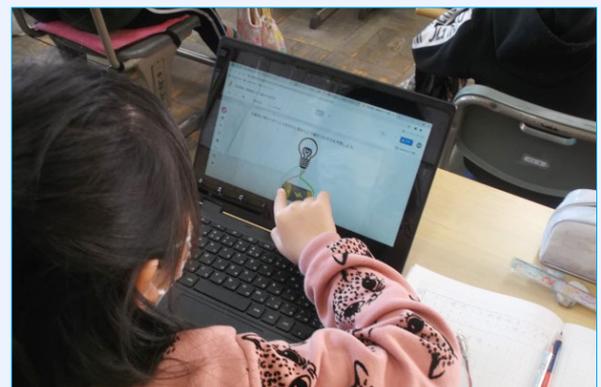


教務主任
野村 美穂子 氏

03

伝える力を育むイベントを毎週実施 "文具化"の先の世界へ手応えも

そうした取り組みの延長上に新たな活動が生まれ、さらに発展しようとしています。毎週水曜日に始めた「プレゼン イベント」です。Google Classroom の専用ルームに Google スライドで作成したプレゼン資料を応募してきた児童が、さまざまな学年の子どもたちの前でプレゼンを行います。プレゼンのテーマは自由。SDGs (持続可能な開発目標) に関するテーマもあれば、髪の毛の秘密、手話、あるいは坂本龍馬に関することなど、子どもたちが主体的に調べたいことを見つけ、資料を作り、発表できるイベント



になっています。今後は、年 2 回程度の「プレゼン コンクール」も実施したいと瀬戸氏は話します。

今年度の研究主任を務める佐瀬氏は「1 人 1 台端末を活用した表現力、情報活用能力を育てるための授業作り」というテーマで研究を進めるうえで「プレゼン イベントやプレゼン コンクールが、情報を集める力、まとめる力、伝える力という 3 つの力を子どもたちが育む大切な場になっていくと考えています」と、これらの展開に期待を寄せています。

Google for Education は、校務やコミュニケーションの面でも効果を生み出しています。野村氏は次のように話します。

「新型コロナウイルスの感染拡大の影響で職員室に教員全員が集まらなかったときは、Google Meet を使って職員会議を実施していました。会議資料は Google Classroom で共有し、共同編集の機能も多く利用しました。また、例年、修学旅行は保護者を集めて説明会を行っていたのですが、今年度は説明会を録画し、オンデマンドでいつでも見られるようにしました。こういった形でさまざまな部分に Google for Education のソリューションを活用し、校務の改善はかなり進んだと考えています」

児童とのコミュニケーションについては、大西氏が貴重な話をしてくれました。「学校を休む児童とのやり取りは、従来なら担任とその児童の間だけのものでした。しかし、授業を Google Meet でつないでいると、休み時間にクラスの児童が画面の前に集まり、家にいる児童に話しかけるのです。これで子どもたちの関わりができ、登校したときに自然と会話が生まれるようになりました」

今後に向けて瀬戸氏は、アナログのよさとデジタルのよさを融合し、より良い取り組みを作り出していきたいと話します。また河野氏は「文具のようにといわれても、なかなかそうはならないだろう

と書いていましたが、Chromebook を 1 人 1 台持つことで本当に身近なものとなりました。これからも Google for Education を活用して児童自ら発信する機会を増やし、クラスで話し合いながら 1 つのものを作り上げる試みをしていきたいですね」と、Google への期待も込めて語ってくれました。



取材日: 2022 年 6 月 28 日

Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える教育テクノロジーソリューションです。

Google for Education の特徴

- 簡単操作
- 手ごろな価格
- 高い汎用性
- 高い効果

1

chromebook

教育向けに設計され、授業向けに開発された軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

3

Google Workspace for Education

時間や場所を問わず学校全体で共同利用できるクラウド型教育プラットフォーム

2

Google Classroom

教師と児童生徒向けに構築された学習プラットフォーム

4

Chrome Education Upgrade

1 つの端末から同じドメインのすべての Chromebook を設定
シンプルなクラウド型管理コンソール

Google
for Education

お問い合わせ事務局 ☎ 0120-905-860 (平日 9:00-18:00) ✉ gfe-jp-isr@google.com

Google for Education の詳細については、右記 URL、もしくは QR コードからアクセスしていただくか、同ページ「お問い合わせ」よりお問い合わせください。 © Copyright 2022 Google
Google for Education、Google スライド、Chromebook、Google スプレッドシート、Google Earth、Google Jamboard、Google Meet は、Google LLC の商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

お問い合わせはこちらから
<https://g.co/edu>